枕草子抄

七

河北文庫

むさしあぶみ

きゝ人のかづとりわかるゝ大きなる舟かみこぐ
大きなる舟乃風よ吹ふきれとゝ根をたゝけとよとさられかせる すまひ乃
大きなる舟乃風よ吹ふきれとゝ根をたゝけとよとさられかせる すまひ乃
ちからくらべとて人乃ちからくらべ をせるもの
ちからくらべとて人乃ちからくらべ をせるもの
人乃ちからくらべ すぐろなる相ぐんぐんとして
人乃ちからくらべ すぐろなる相ぐんぐんとして
おれなるを必ずねさいぐん相をとひ
おれなるを必ずねさいぐん相をとひ
ちからくらべとて人乃ちからくらべ をせるもの
ちからくらべとて人乃ちからくらべ をせるもの
ぐろなる相ぐんぐんとして
ぐろなる相ぐんぐんとして
おれなるを必ずねさいぐん相をとひ
おれなるを必ずねさいぐん相をとひ
ちからくらべとて人乃ちからくらべ をせるもの
ちからくらべとて人乃ちからくらべ をせるもの
ぐろなる相ぐんぐんとして
ぐろなる相ぐんぐんとして
おれなるを必ずねさいぐん相をとひ
おれなるを必ずねさいぐん相をとひ

河北文庫

和讃四曲日向類高麗樂
曲乃中に狂大そてあり。
ひすいを錦とする無
量寿ゝ耀るゝ宝座
ゝ乃中に仏人まさしし
仏法と仏眼を言葉八
世法なるゝ乃ゝ
例乃ゝ云出ゝるまずゝひあゝ。
仏菩薩ゝ囲繞せゝれ。諸乃仏菩薩乃功徳を具足せゝ。亦仏母ゝるゝも号ゝり
瑜祇経云時金剛薩埵對一切如来前忽然現作一切仏母身住大白蓮身作白月
暉両月微笑二手住臍如奢摩地従一切支分出生十恒河沙倶胝仏一々仏皆作
礼敬下略ゝ仏法乃深秘密ゝの家ゝ乃ゝ

ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃

女院と大暑院と同じ

女院乃侍藏人乃おとを帝乃侍ふ

女院の侍藏人乃侍ふ

宣旨の侍ふ

女院の侍ふ

帝乃侍ふ

宰相中將乃侍ふ

宣旨の侍ふ

女院の侍ふ

女院の侍ふ

女院

清涼殿上の廊
乃里戸口より人こゝろゝゝ袖ぐち
させるへ戸口より人こゝろゝゝ袖ぐち
ゝゝゝゝもをひきあげゝゝゝ權大納
言殿清涼殿の簾
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いざなぎ　いざなみ　これれ
引寧也　いざなぎ　人　人
人をたらうし　信　と也
也人成々乃　孤子先
きさ也　乃　わ　る　ハ　ひし
耳安　ま　れ　ひ　ら
はめ　ど　れ　奇　ば　ス　ま
茅を摘　お　へ　を　つ　と　ど
わ　と　ひ　を　ス　ち　つ　め　ど
を　き　さ　也　ず　に　う　こ　ぬ
ハ　ま　れ　す　し　お　き　な　る
中　お　ハ　ち　と　り　ま　も　な　る
ま　の　を　と　し　菊　を　ま　て
二月　そ　ん　乃　ま　ま　さ　の　ち
ぢ　や　う　　そ　二　月　ス　見
乃　ち　ま　べ　ー　列　見
定考　姚　ま　乃　ス　ま　ま　れ　ハ
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
釋奠　乃　ま　ま　を　賞　見
釋奠　乃　ま　ま　を　賞　見
定考　日上　簡　上　卿　参　釋
奠　例　天　曆　八　十　一　云

いざなぎ　いざなみ　これれ　ハ　ま　て　そ
か　ま　と　ま　ん　い　ま　と　い　ま　ま　の　ま　れ　ば　も　べ
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

吟る月釋奠乃酢をまつり給ふ。義人又一人虎子餅乃おろし進む。義人又一人虎子
餅乃おろし進む。義人餅乃つきの
ゆ乃間ゆ。この餅子。ゆ。ゆ。ゆ

以安分納言のもとに
紀成方我らこそは
きこえつ侍る同名
別見定者ふ安やお納
言ふ形熟餅膳
等をすゆるるれて
安分納言とこと
上皮のうちゆく
おのうち皮は大改皮の
ふ記史をとも
きこいたんはを大改
皮の皮人をとわる
ものとも
ものとてはいと
ふはれ紀成乃賞ふ
ものを人とする
れを注て自身おて系

惟仲の
きこえんと所のひきいたすれば
惟仲の
いとよくしまそなたの
わさくうるたうてきてうはなく
餅膳
ものをすゆるるはてきてるて
惟仲の
ふ納言とこと
上皮のうちゆく
おのうち皮は大改皮の
ふ記史をとも
きこいたんはを大改
皮の皮人をとわる
ものとも
ものとてはいと
ふはれ紀成乃賞ふ
ものを人とする
れを注て自身おて系

惟仲の
きこえんと所のひきいたすれば
惟仲の
いとよくしまそなたの
わさくうるたうてきてうはなく
餅膳
ものをすゆるるはてきてるて
惟仲の
ふ納言とこと
上皮のうちゆく
おのうち皮は大改皮の
ふ記史をとも
きこいたんはを大改
皮の皮人をとわる
ものとも
ものとてはいと
ふはれ紀成乃賞ふ
ものを人とする
れを注て自身おて系

紀成のほかに
紀成のもとにおりて
下部
紀成の
紀成のもとに
下部
紀成の
紀成のもとに
下部
紀成の
紀成のもとに
下部
紀成の
紀成のもとに
下部

みに形成はさはりて此河をひかせ給ひし
これこそうえがてき　人のあるかぎりは
あがくべきなり　はうさえそめる六位ちや
えもちはかごとき芳
あのいはいたるとひ
ちごとをろり。
六位　ちやくこう
新発人の男よ此幾
乃板をせこうはかの
主世のけるーゆやつき
こうこうめとハ位女の
細めをいさ六位ハ殿人
ちうし
ちうあがをけ。いひつし
義花紋こうこうちうあつ貴
芳ちうあ。一勅幼き
上鬲乃上ちきこう。
こう形細くちられべき
ちうちもいべし
かこうみハちりちうと
殿ちこうかごうみハ童芳乃
きこう。雲物汗初ちき
庶ちき拙ちうべし

ちうきねハこうちうきけ
ちうよ背子形翠臂無
腰こう。腰ちきゆこうこう
ちうこうねとこうこうめと
うこのきねのこうあ
表袴乃こう。桃華蘂
表袴中サ侍ハ大臣侍
ちうこうこうこうこう
年乃時ハ白き浅緑縁。
裏袋の浅ちを用ゆ。
裏ハ紅ナリ　平絹也ト略
おかこうち
桃華蘂　赤大星華
絹紅こう濃こう用こう
濃紫菜ハ浅平絹也。
名月初ハ大ハ生平絹也。
幼年月ハ白長年ハ紅。
板殿の所ちう　入道関白道
隆公薨ちうこうこう
長徳元年四月十日こう
薨の由ちうこうこうあり

あれこうこうこうこうこう
ちうへのきねれちうあさこうべ。
がさねとちうこうこうこうこうこう
ひろこうこうこうこうこうこう
きこうこうこうこうこうこう
けうこうこうこうこうこう
ひのこうこうこうこうこう
ねこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこう
こう

月と秋と幸と

朗詠に花信三風の句

南樓翫月之人月与秋期而身何去　文粹出

願文乃句

[illegible]

[illegible]

酒のく詩どんしあどするふ乃中特で

妖信てお信の[illegible]月秋と幸と朝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行乃名をもとゝいはれていぬるこ
ろおりゝなれどなをへをきりて。人のあべ
てきるべくとほゝぬ事をべいまづあどのゝ
ほうの織乃名をもとゝぬ物をあるわれば
人へぬ行乃名をもとゝぬ物をあるわれば
とやおぼしつんとゝくぬきゝとゝうえを
あどのまつぬまめごとあどいひあらせてぬえ
あよぬ山君ゝとせうすとゝふ詩をすゞてえ
あつまわもきゝれば教上人のおしゝていひきゝつる
おいもあゝていあどかつりあひわるゞぬ
ぬやをくこうあつれとのあへぬさるゝう
ぬとは乃ゝくへをゝせんゝと申ゝくあん教
上人もいひのゝきゝつれぬゝへとき

法ゝ上人のゝせゝこゝろあ
すをけいしゝれい
ゝ納言命婦こゝろの法
ゝを左文へゝゝつゝする
とゝゝは法ゝの乃ゝを
教上人のおしゝる法
上人ところ

うゝ上すゝゝも
ゝゝひ左ゝゝて
を一向ゝ法ゝゝき事へか
くゝゝ法ゝふへゝせゝゝの

ゝて異ぜゝをゝひつゝとかゝる。安ゝとゝ法
ゝかへゝゝゝくゝゝすをゝんゝゝていとゝゝゝが
ゝゝへゝこゝて。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝてゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝずんじゝて法ゝ乃ゝんゝゝ入ゝてきこゆ。
ゝとめゝていとゝくゝゝ納言乃命婦こゝゝ法
久ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝの織ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝへぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うんゆうゐんのれうての
園獻院　一条院乃御父
帝と正暦二年二月十
三日に崩御三位をそなへ
れ一周忌乃ゝ
年二月のゝ
ゝゝゝ
れ一周忌にて服衣と
ぬぐ　陰服乃後にて
は喪に出て祓事とか
ゝゝゝ
ゝゝ　仁明天
皇乃御男にて今の紀殿
御とゝ　通昭皆人八
王の衣に成ぬ　昔の秋
よりはきぬ　今よ
ゝ　光孝天皇四かゝて
月日もゝてゝ　暦三
年に成ぬ　衣よりはきぬ
ゝ　一条院乃れ
月後三位乃つかねに
ゝ　雅の
わゝ乃ゝ
ゝ　後三位
ゝ　れ
ゝ　後三位の
ゝ　れ
ゝ　後三位の
ゝ　れ
ゝ　後三位の

三条にあるの傍示をきこの
新宮法門の所のかぐ
のはしらにかくよおかてふ
わづのみそときこえる法
王にあるとき寛朝僧正
の式部の教実祝この三男
雅実云のはなし
表大納言 内融院の別当
ときこいいしいしいし孤
久行卿

これをうけ給はりて
推参の神のこと奏
納言の卿二所を
ちらしまた佐参門
ちらし

院の別当りかいせーくばさきてある事
おもりこれをうへのはしまへうすぐよとう
きこしめさせやとおしふよいとやとおも
いあるとやうきこと
くれどもわかうろうひとる物いこを出
むとわんじてまぐはとめて菊大納言
のはしらとよばれ一を出くさーとせ
きばすおもちゝ又ある出くさーとせ
くりそれをふりあくとりていうぎ
まりて菊大納言のはしらとうもかえ
しまする法師の寄人帝
の法師のこと
ひとすぢ法師の厨子の
くるる法師なを九
いでさせのこ
これのかれよ
そいくるる法師
かりのてはらんれ
とくしたる誰ぞ出
きれぬ

傍がう 傍綱く 傍正
傍郎 体師そどと
いふ

ばわらりふくしよ
こうはいくくやとれ
ものを法師の寄人帝
の法師くまれ
くくて法師の厨子の
くくる法師なを九
いでさせのこ
これのかれよ
そいくるる法師
かりのてはらんれ
とくしたる誰ぞ出
きれぬ

のくくはければ法師はこれをいれがたわざあり。す
きくきさめんぐちめ傍がうあどそこ雑くは
あるそれくやかれくやあどかがはきゆ
うがうふよう帝ばわらるよくしよ
くくはけとうふぐめれとうちわえま
せのひくくとひとすぢ法師の厨子のくと
あるくるとりさせるへれぬである
ぎうこれあるされよおるあらくやいう
できくはんとくでせるよせるよてうう
みきくくわくひうよやうくあるせ
きー出くくはつくひよいきくくるくふ
わくくくざいくんあるとといくのく
異書九とて法師の

菊大納言

小者来　伝奴の女房を
わりし八人
ひきゆるゝ　一ちりて
伝奴を荷之後のわをち
まつやせ〳〵ゝゝ
ゝ帯と
ゝ
ゝ

いとやうなる奥ぞうき
伝奴母をれいかをれるこの
うつぱとゝゝ
ざいゝんあつも　樺岸の
墨盤おの女房の伝ひ
独力自らわゝをゝ
ひさめも
みとられ一人よ
の伝わわてそれて
そゝゝりし荷之後
の女房よゝすれど

とゝあるとゝんあ
やあるとゝんあ
ゝ女のゝを
らせおゝ
ち洗ひて伏
ぐわねゝ
きてゝ
の去りて
ゝとられ
いつぱれ
わゝ待し
ゝりて

ところさりゝる絶ゝ
わゝゝ去り対家をさ
ゝとゝて絶ゝ
ゝ
馬八養のゝ　晋書衰
彦道が伝ゝ投馬絶
とあり元博局ゝ
ゝ
ゝ

なゝゝのゝゝ
おゝゝゝ
ゝ
れゝ
ゝ
絶ゝ
ゝ

ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

但しもとより風儀の物をば法とする事なれば
はくひいふをりてよ〜実家乃時分の仮乃座ハ小面。南柔乃时ハ南面なるべし
雨降りの日ハ小面柔のよりなれば不宜しかるべきハひが事なるや
ほんとうとうとう

伊世宮にて舞人すみて饗の舞人すみて饗の舞人すみて
先一乃舞二入進出て
出りぬ舞人上ち退
行基の舞ちよりて
ち乃祖ひて進て求
子をまつり舞をうて
舞人下ち退く大比
礼をなして退出る
八退出る楽屋の
馬廻を経て建春門よ
りわたれば笏を
ことなるうしひ
笏を乃此時の
所定家こうる神し
らしほよ家を
えうぶとめるう
とうるのとうを

袍の領し裕和名コロモクビ
きぬ乃ムラヒ
来よのうしろ
こまの山ちとう

こえのあやのうなぐ
いまどはくろひてあやをあき
くうとひてまひくちくるぱすべて
大比礼也江次第云遊舞大比礼也
いそぐめでうおかひれあとまふ八月ひと
大比礼の後使舞人退出
いろうもなくまぐきをぞてぬるこういと
ロあれどやうさかうべとをふいあを
きこしぬみことを御琴の音とりきかしてぱくひやをて行
江次第云時經法師乗
乃うるまひ出てぬぎてれるさま
どもの物めくさぱうぐこうたれぱひ
擬練下襲舞人の
ぬり乃下がれあどうれあひてどうさ
うるうまわるぐるるぱで交ようべで
よはまぱうびハ又をなるまぐそれな
やいうぐこうをてあんるハロあれ

ぬきくれつるうを
江次第云日祖者尺祖袍袖
許不祖半臂下重
ぬりぐちの後くら
むーハ南殿よ還立ち
くて笏を半ぬうて
中務ちうう云事振係
云笏笏の腰時乃奏先歌
月示試示測示ぬぐ
あり。高月ハ義武陪膳
庭先ちぐ云後ち同。
社乃殿果て使殿
ぱうりて還立の後
あり。孫廂よ後陣
ぐうぱうり直衣ハ袍
鞠をめす。額間より出
舞人ぱくうぐうり本殿ハ神ぬれ
ぬ名あれハ貴子長殿うり後ち階の乃
て神ぬあり立庭先ちぐめて名今こを
あうぐれたぐハ後ぱあり。こうくらちてうぐありうを

上達部ぬぐぐもぱぐきて出ひぬれぱと
ちうぐ立ふロぬきよ殿乃まんーの
まちわぬへまぐちの後ぐらあぐうこうう
あくさめくうれ庭天の乃ちうの
人ぬ勝突ぐ雪ぬうぐぱら乃笛ハおちうちふわる
あきぐううふ吹ぬ前ぐるよ舞の走もて
あをれよいうぐ
てうちくうの衣裳し
ぬれひゆううとうりの庭南ハ二行よ庭を出て使ひ
舞人ぱくうぐうり本殿ハ神ぬれ
ぬ名あれハ貴子長殿うり後ち階の乃
て神ぬあり立庭先ちぐめて名今こを
あうぐれたぐハ後ぱあり。こうくらちてうぐありうを

けしきのおのこ
雲間より陪神樂裏書
歌韓神時人長立舞次
勸盃次人長進弓弦男
五拍子根拍子也男
又すこしすこして文の
男めすこ
舞人陪從
の男之次第云舞人
陪從皆起座隨人數作
皆次第着座
しづかにとゑとゑふあの板
里人八度おの綾ちどいん
ねの使舞人ぞのだ綾と
わすこをとて。牧あくで女
成まづりてとすこも
けやーろまてして
江次第十次成所時
社次第。使舞人ぞと
第次第て頂戴敬礼人れ
ぞれて勸盃あり。使ひ
宣命をとりて使る文引

文男

けしきのおのこどもめしてとびきーこもの人
ちのぞたげさあどこういそでくれ。里
あるとときこはーこはーこはー

第六十番

[illegible]

故よのうぐいす

世のすゑとなるべし

中関白道隆公薨じ給ひて御堂殿関白なり

[illegible]

伊周公と弟隆家の公との[illegible]

太上天皇花山院を[illegible]

恨みて射奉らんと[illegible]

[illegible]

伊周公と弟隆家の公との[illegible]

[illegible]

[illegible]

あをーと 梅の葉葉と
ひろ

まぐろこれハちぐりて作るぞ〳〵ハせてこ
そとつひつれど寒をうぜて作らんぜんと
てことにうつ中をまつて作るぞ寧相乃天れ、ゐてて
つるぬぬうくもたぐ〳〵つぶ作置作とと
ぬ小豆〳〵おつれのまし
ぬぬ作ぬぬぬ

おなじ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

あれハ今ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

たのぐるの人をして長りいかるぐ童アをたりさ
ぬるふくぐ[illegible]をくれば指ぐきみて色長
こをりてるも
あるるるりてこと
りるる　彼芳切の人
左方ふをたてわぐと
たりりみをんとて
たるるわさとたてぬ
うと片吋のりぐう
さるくをひぐきる
ひきるれて　をぐ
てわるるもを
ぬるをりる　芳切の人

いるる事をいひ出んと尺てられぬる
さの人を[illegible]ぶとまくれ
まをわてぬぐくとふれどいとをとる
し。天[illegible]芳切の人のるぐりたるとゆ午といひ出るちたり
りの人いとたるあるとこひたるり
こるるれの人はとわぐどあさ
きうのわていとみておいぎやるく
てあるるよりてとりるよりけ
させんどたるるをあどぐこときの報
るるよりたり人がこるこひたるぐら
りひるるやりりるよたるぐどにり
れるるぐふたるくれるよ報させく

からふ定めて指の報
とるるるるるぐ報る体
指云芳合る貞指とて
あるとし天徳り芳合る
金報り芳の報と河淀
よりて[illegible]のをーの不
にをぐ芳の報て報
とられるるる
人よ指るるるる
慶事とたざるるて指
たるるれるよるの指る
指ぎ事るるあるれど
を報をよるみてる
功芳るり指せる
にるるれる　るるどふ
るるに指るるるぐ
ぐるの芳
てるるれる　邪去て
をりのるるるるるる
合報るるどるるいしる人
るるるりりのりるるるる報
るのれるるるるるる事

報ぎるの人るるるる
るるて乃報せるるるぐ
報指るれるるんぐるるるるるるど
るんどれるどるるるるるるるるる
るるれるるるるるるるるるるるる
人るる指るるるるるるるるるる人の報るる
れるれど芳報るるるるるるるるる
ひるるる指報れて報るるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるる人
るるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるる人の芳るるる
るるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
おもれ簑を取れと
いひのまに〳〵くるみぎ
たるぺ〳〵ぬて簡るれ
ざるし
さいはいぐうのふもも
さるり我さいを取
れと呪唱るしよ
きれるんゆるし

ふいぐろあるくき
たるげろはさる
元塚まよりたるひの
こうちきぐろあぐ
ろるきるてとる

毛而別作
きうげあるおのこのすぐろくと日ひしう
ちくれあるぬるやみぐるきこうぐいす
火をけるくかげくぺるきれさいをこひせ
めてぺるみもいれわぐどうをぐんのうる
るこるぺ〳〵かわきぬのらびれろわるかれぐ
しをるるやてさいみぐうのろみしぺう
ちるぐてんやと心ともあげるうちゃもり
しるこるかぐ、わるるえゆれ
碁をやんぐるるきん人のうるてひしうち
るきぺおいぐろあるるきるひろひるく
伝ひるきるるのれも
ぺるるん人のぬぐるるぬもかこまわるる

直多の〳〵絶
ことこうしわも
呪唱し
来サイ 黎名
敵しおるも

かこまわるるくさる
神のるこるるるるて
及いるふるをへみて
盤の上るる神のるるる
やるるぐるるる

はるるみのるる
槙和名 樂毎見也 とどん
るるのるるるるるる
らげふるき 和名云茨一
名雞頭草 其實似鳥
頭故以名之

かるまわ 金椀 和名おたに
るるをゆるるるる通れ
するるるるるゆるるる
れし
るるひい 孟仁ぬ綿
をるみてむるるるる
るるし細説にゆるゆるる
よるるるるるる

くるきてるるるるる
るるるるるるるる
神のるるるるるる
やるるるるるるる

おるるるるるる
はるるみのかさ やみるるる あるぎる
ひい 菱也 るるるるるるるるるるるひ
てるるるるるるるるるるるるるるる
きるるるるるるるるるるるるるる
かるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるる
きるるるるるるるるるるるるるる

わるどもの　ほとゝぎすをうくはな
らぬ人　ちるもし　ほきさそる　すぐるもあり
くちごあづいるものすぐめのと　あ
つきなどうひさくゆあげぬ　さぬ
乃ちあくるいづれもくきるみげ　ある
中ぬるとろ乃きゝ　うきるみげ
ゐれ